

玉井 金五

### 1 課題の限定

- ・ 1897 年社会政策学会発足、1907 年第 1 回大会開催
- ・ 第 1 回大会からカウントすると、今年が 100 年目
- ・ この間、当学会はさまざまな「格差問題」等への取り組み
- ・ 上記の 3 つテーマー今日的な格差にかかわる話題を提供
- ・ 少しこれまでの軌跡を振りかえる形でアプローチを試みる

### 2 「平等感」の醸成ー高度成長期ー

- ・ 完全雇用と社会保障の時代
- ・ 成年男性労働者とその家族における平等感
- ・ その他の人々は必ずしもそうではなかった
- ・ 1962 年社会保障制度審議会勧告ー 3 つの階層分類（一般、低所得、貧困）
- ・ 福祉系列の社会政策ー1961 年から国民皆保険皆年金体制（第 1 のセーフティネット）
- ・ 社会保険（1962 年社会保険庁）> 公的扶助（第 2 のセーフティネット）
- ・ 社会保険ー「職域間・地域間」格差の是正路線

### 3 「官」から「民」へー1980 年代ー

- ・ 生活保護 1965 年格差縮小方式、1967 年中央社会福祉審議会生活保護専門分科会提言（一般世帯と保護世帯の目標値、100：60）、1978 年四級地完全廃止、1984 年水準均衡方式、1980 年代半ばすぎから保護率の低下開始
- ・ 社会保険の発展、生活保護の縮小というイメージ形成
- ・ 高度成長の終焉ー地域保険の揺らぎ
- ・ 国民年金財政の第 1 の危機
- ・ 1985 年の新年金制度（基礎年金）の創設ー制度間財政調整の導入
- ・ 当時の年金と生活保護の逆転現象問題
- ・ 「官」ーミニマム保障の確立、「民」ーそれ以上について役割発揮

### 4 ミニマム保障の動揺ー1990 年代ー

- ・ グローバル化、IT 化、少子高齢化、それに平成長期不況
- ・ 福祉系列のセーフティネットの更なる揺らぎ
- ・ 生活保護ー保護率低下（特殊な期間）の反転
- ・ 国民年金の空洞化問題ー第 1 号の未加入、未納、滞納、免除（第 2 の危機）

- ・年金と生活保護の本格的な水準比較ができる状況形成
- ・そうしたなかで非正規雇用の増加を背景にした最低賃金制度への関心の高まり
- ・別個に取り扱われていた<3つの水準論議>ができる環境

#### 5 「階級間・階層間」問題？－2000年代－

- ・最低賃金>年金>生活保護という原理
- ・「官」と「民」に加えて「公」の役割
- ・新しい格差問題－「教育」「優生」ほか
- ・「職域間・地域間」格差是正路線の行き詰まりと打開模索
- ・「階級間・階層間」格差是正路線への転換？

#### <注>

玉井金五・久本憲夫編『高度成長のなかの社会政策』ミネルヴァ書房、2004年。

玉井金五『『年金レジーム』の日本的展開』佐口和郎・中川清編『福祉社会の歴史』ミネルヴァ書房、2005年。

玉井金五「<巻頭言>現代日本のポバティラインを考える」『社会政策研究』6号、2006年。

玉井金五「現代日本のポバティラインを考える」社会政策学会編『格差社会への視座』法律文化社、2006年。

玉井金五「日本の公的扶助と日雇い労働者問題の現在：大阪の事例から」『第3次社会保障国際学術大会報告集』韓国中央大学、2007年。

玉井金五・大森真紀編『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2007年。